

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月28日

事業所名 ハートピア出雲スマイル

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4名	5名	・利用する児の人数や特性に合わせて、活動内容や場所、遊び方を工夫している。(公園や散歩、とぴあ館の利用等)	・重心児や医療ケア児、又は病み上がりの体力が低下している児もいると、利用児数でペースを考慮するというより、利用児の体質や特性で配慮が必要な場合がある。「安静室」として、ゆっくり過ごせる空間があることが望ましい。現在は別室対応が必要な児がいる場合は、会議室の環境を整えて使用している。
	2 職員の配置数は適切である	1名	8名	・有給消化に職員や家族の体調不良などが加わると、現場の安全な配置数が確保できていない。その場合、ボランティアスタッフや他部署にお願いしている現状である。	・利用児の障がい複数あったり、重度、医療ケア等様々なため、基準の定員を満たしていても足りなさを感じる。もっと色々な行事、訓練、活動などの療育の幅を広げていきたいがそれを準備する時間や人員が足りない現状も考慮して欲しい。 ・利用する児に合わせて職員を配置するように調整しているが、急な休みや会議で療育に入れない場合にも対応できる職員数の検討は必要。引き続きボランティアに依頼する。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7名	2名	・必要に応じて部屋を仕切り等で分けて工夫している。終礼や会議、ヒヤリハット報告、緊急時シミュレーション等から出た意見を参考に物品を購入したり、壁を塗装する等して環境改善に取り組んでいる。	・別室対応の際、緊急時や感染対応としての情報伝達の手段がないため、内線の設置を検討する。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8名	1名	・使用した場所や玩具の掃除や消毒を日々行っている。定期的に物品の点検もしている。	・排泄や着替えの場所の確保や配慮が不十分であり、改善が必要。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7名	2名	・申し送りやケース対応について紙面上、もしくはスタッフが集まって情報伝達を行っている。 ・ヒヤリハット、インシデントを積極的にあげ、業務改善を行っている。	・月1回の支援会議や日々の振り返り等に全職員が参加できていない。問題点をあげたり、それについて改善点等を話しあう時間確保をし、全職員が参加できるようにする。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9名	0名	・昨年の評価結果だけでなく、日々の送迎の際にも保護者と話し、意向等を把握できるようにしている。また、意向を受けて職員間で話し合い改善に努めている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9名	0名	・年に一度評価を行い、結果をホームページに掲載するとともに、保護者にも改善内容も含んだ結果表を配布している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1名	8名		・現在、第三者による外部評価は実施していないが、第三者に現状を客観的に評価してもらい、改善に繋げるため、必要であると感じる。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8名	1名	・研修の内容を知らせて、希望する職員が参加できるように調整している。また、内部研修も行い、職員全体で参加できるようにしている。	・平日の研修には出にくい状況であるが、土日などの参加可能な研修には積極的に参加し、職員間で共有し、日々の業務に活かしていく。
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9名	0名	・複数回利用する児に対しては、職員も複数で担当するようにし、支援が難しいと感じたときは相談し、一緒に支援計画書を作成している。	

適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9名	0名	・必要に応じて発達検査を実施している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9名	0名	・全ての利用児の個別支援計画書に必要な各項目を記載している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9名	0名	・複数担当で振り返りを行いながら、支援計画に沿った共通した療育ができるようにしている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9名	0名	・立案から実行までを細目に報告しながら、多職種の意見も合わせてプログラムを考えている。 ・複数のスタッフで相談しながら立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9名	0名	・サーキット活動でも利用する児に合わせて構成を変えたり、行事録を付けて固定化しないようにしている。また、季節に応じた活動も取り入れている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9名	0名		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9名	0名	・朝礼や終礼を行い記録を残し、必要に合わせてや話し合いの場を設け、出勤時間が異なるスタッフにも情報が伝わるようにしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7名	2名	・毎日の終礼ができない場合にも、その日にあった出来事はリアルタイムで共有し、次の療育に向けて共通して動けるように話し合っている。 ・話し合いが必要な時には、適宜時間を確保し、職員全体で考え、共有している。	・勤務時間の関係で終礼に参加できない職員もいるため、終礼時間を調整し、全職員が参加できるようにする。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9名	0名		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9名	0名	・半年に一度行っている。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9名	0名	・複数で参加できるように調整している。 ・保育士、看護師、心理師、OT、PTが必要に応じて出席する。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9名	0名	・関係機関との連携を個別支援計画書にあげて行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	9名	0名	・必要に応じて各機関との連携を取る体制が整い支援が行われている。	

関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	9名	0名	・利用開始時に指示書をもらい、医師の指示を取っている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9名	0名	・保護者と一緒にサポートブックを作成し、移行会議にて丁寧な情報共有を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9名	0名	・同上	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5名	4名	・他事業所主催の研修参加や、必要に応じてリハビリ施設と連携を取り、助言を頂いたことを療育に取り入れている。	・特定の職員のみでの連携が行われているので、職員間で共有していく必要がある。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0名	9名	・園在籍の利用児については、それぞれの園にて交流されている様子を情報共有している。	・在宅児については、他の子どもと交流できる場(ホワイトピース・温会・クローバーの会)を掲示・配布などで情報提供している。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0名	9名		・案内はいただいているが、療育現場の対応を優先しているため、参加が難しい状況である。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9名	0名	・連絡帳や送迎時に伝え、希望に応じて懇談を行っている。保護者のニーズや悩みを受け、訓練内容に取り入れたり、支援ツールを作成したりし、家庭にも繋げ困り感の軽減を図っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0名	9名		・今年度は感染症拡大防止対策の為できなかったが来年度は行う方向で進めている。今年度は開催時期、内容についてなどのアンケートを実施した。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9名	0名	・契約時に説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9名	0名		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9名	0名	・半年に一度のモニタリングに際し、アセスメントと共に保護者の困り感やニーズを聞き取り、必要に応じた対応を行っている。 ・保護者の気持ちに寄り添いながら、どのような支援や方法があるか一緒に考え、解決して行けるようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0名	9名		・今後開催に向け、計画を検討中である。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9名	0名	・職員間で周知し、迅速に対応するようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9名	0名	・お便りだけでなく、必要に応じて公式LINEで情報を発信した。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9名	0名		

	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9名	0名	・意志疎通のために、その子どもにとって分かりやすい支援ツール(カード選択やアイコンタクト・スケ)	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9名	0名	・避難訓練の際には近隣の方へお知らせし、希望する方には参加してもらえよう誘いかけている。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9名	0名	・緊急時を想定した具体的な動きを、色々な職員が経験することで周知できてよかった。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9名	0名	・対策委員会を立て、訓練の実施、振り返りを行っている。備蓄品の管理も行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9名	0名		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9名	0名	・医師からの指示書を従い、どの職員でも対応できるように、アレルギーについての個別カードを作成し、複数で確認して提供している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9名	0名		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9名	0名	・研修した内容を発表する機会を設ける等して周知している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9名	0名	・2ヶ月毎に身体拘束適正化会議を行い、適正な支援について確認している。個別支援計画書に記載し、保護者への説明を行い同意を得ている。	